

## 週間火山概況 (平成 21 年 10 月 16 日 ~ 平成 21 年 10 月 22 日)

### 【火山現象に関する警報及び予報の発表状況】

いずれの火山についても、噴火に関する予報警報事項に変更はない。

表 1 今期間 (10 月 16 日 ~ 10 月 22 日) における火山現象に関する警報及び予報の発表履歴

発表日時	火山名	警報・予報	概要
毎日 07 時、17 時	三宅島	火山ガス予報	島内の火山ガスの分布予想

表 2 10 月 22 日現在の噴火警報及び噴火予報等の発表状況

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 3 (入山規制)	桜島
	レベル 2 (火口周辺規制)	浅間山、三宅島、薩摩硫黄島、 口永良部島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島
噴火警報及び火山現象に関する海上警報	周辺海域警戒	福徳岡ノ場
噴火予報	レベル 1 (平常)	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、岩手山、吾妻山、安達太良山、磐梯山、那須岳、草津白根山、御嶽山、富士山、箱根山、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山(新燃岳)、霧島山(御鉢)
	平常	上記以外の活火山



図 1 噴火警報発表中の火山 (10 月 22 日現在)

## 【警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

### 浅間山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

山頂火口からの噴煙量は4月以降大きな変化はなくやや多い状態が続き、噴煙高度は火口縁上 100～300mで推移した。

火山性地震はやや多い状態が続いている。

19日及び22日に行った現地調査では、二酸化硫黄放出量は一日あたり400～900トン（前回10月15日、300～400トン）と、2009年2月の噴火以降、減少傾向がみられるが、2008年7月以前と比べて多い状態が続いている。

GPSによる地殻変動観測では、2008年7月初め頃からの深部へのマグマ貫入を示す伸びの傾向は、2009年7月頃から鈍化している。

浅間山では、今後も山頂火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、山頂火口から概ね2kmの範囲では大きな噴石<sup>1)</sup>に警戒が必要である。風下側では、降灰及び風の影響を受ける小さな噴石<sup>1)</sup>にも注意が必要である。なお、火山ガス放出量の多い状態が続いているので、風下側にあたる登山道等では火山ガスにも注意が必要である。

1) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風の影響を受ける小さな噴石」のことである。

### 三宅島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

噴煙高度は火口縁上概ね100～300mで推移した。

火山性地震はやや多い状態が続いている。

三宅村によると、山麓では時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

三宅島では、今後も山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に対する警戒が必要である。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとして予想される地域では、火山ガスに対する警戒が必要である。降雨時には土石流に注意が必要である。

### 硫黄島 [火口周辺警報（火口周辺危険）]

独立行政法人防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過している。国土地理院の観測によると、2006年8月以降みられている島全体の隆起を示す地殻変動は、2009年5月中旬頃から隆起の傾向が鈍化している。

硫黄島では、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、これまで小規模な噴火が発生した領域では噴火に対する警戒が必要である。

### 福德岡ノ場 [噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報]

今期間、観測は行われなかった。なお、これまでの海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部及び海上自衛隊による上空からの観測で、福德岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

福德岡ノ場では引き続き小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要である。

### 桜島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）]

昭和火口では、爆発的噴火が18回発生し、大きな噴石<sup>1)</sup>が最大で4合目（昭和火口から800m～1,300m）まで達した。また、同火口では夜間に高感度カメラ<sup>2)</sup>で確認できる程度の微弱な火映が観測され

た。

南岳山頂火口では噴火は観測されなかった。

火山性地震および火山性微動は少ない状態が続いている。

19 日に行った現地調査では、二酸化硫黄放出量は一日あたり 1,400 トン（前回 10 月 13 日、1,500 トン）と、引き続きやや多い状態で経過した。

国土地理院の GPS による地殻変動観測では、<sup>あいら</sup>始良カルデラ（鹿児島湾奥部）深部の膨張による変化が引き続き観測されている。

桜島の昭和火口及び南岳山頂火口から 2 km 程度の範囲では、大きな噴石及び火砕流に対する警戒が必要である。また、風下側では降灰及び小さな噴石<sup>1)</sup>（火山れき<sup>3)</sup>）にも注意が必要である。降雨時には土石流に注意が必要である。

2) 九州地方整備局大隅河川国道事務所の黒神河原上流設置カメラ等による。

3) 桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。

<sup>まつまいあうじま</sup>

### 薩摩硫黄島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

硫黄岳山頂火口の噴煙活動は高い状態が続いており、噴煙高度は火口縁上概ね 100m で推移した。

火山性地震はやや多い状態が続いている。

薩摩硫黄島では、硫黄岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね 1 km の範囲では噴火に対する警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石<sup>1)</sup>にも注意が必要である。

<sup>くちのえらぶじま</sup>

### 口永良部島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

9 月 27 日に火山性地震が増加し、その後次第に減少しているが、地震増加前と比べてやや多い状態が続いている。

口永良部島では、新岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があるため、火口から 1 km 程度の範囲では大きな噴石<sup>1)</sup>に警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石<sup>1)</sup>にも注意が必要である。

<sup>すわのせじま</sup>

### 諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

<sup>あたま</sup>御岳火口では、小規模な噴火が時々発生した。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

諏訪之瀬島では、今後も御岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね 1 km の範囲では大きな噴石<sup>1)</sup>に警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石<sup>1)</sup>にも注意が必要である。

## 【噴火予報発表中の火山の活動状況及び予報事項】

たるまゑさん

### 樽前山 [噴火予報 (噴火警戒レベル1、平常)]

16日14時24分頃及び23日(期間外)02時07分頃に、振幅の小さな火山性微動(継続時間:16日は約40秒、23日は約2分30秒)が発生した。火山性微動の発生は2009年9月25日以来である。いづれの火山性微動の発生においても、傾斜計(C点:山頂ドームの北約1.5km)にわずかな変化(山上がり)が観測されたが、噴煙の状況に特段の変化は認められなかった。火山性地震は、16日の火山性微動発生後、一時的にやや増加したが、その後は少ない状態で経過した。

17日に実施した現地調査では、噴出等の痕跡は認められず、火口周辺に特段の変化はなかった。

A火口及びB噴気孔群では高温の状態が続いており、また、山頂溶岩ドーム付近の局所的な膨張を示す地殻変動が、2006年以降継続している。

地震活動や噴煙活動は低調な状態であるが、今後の火山活動の推移に注意する必要がある。

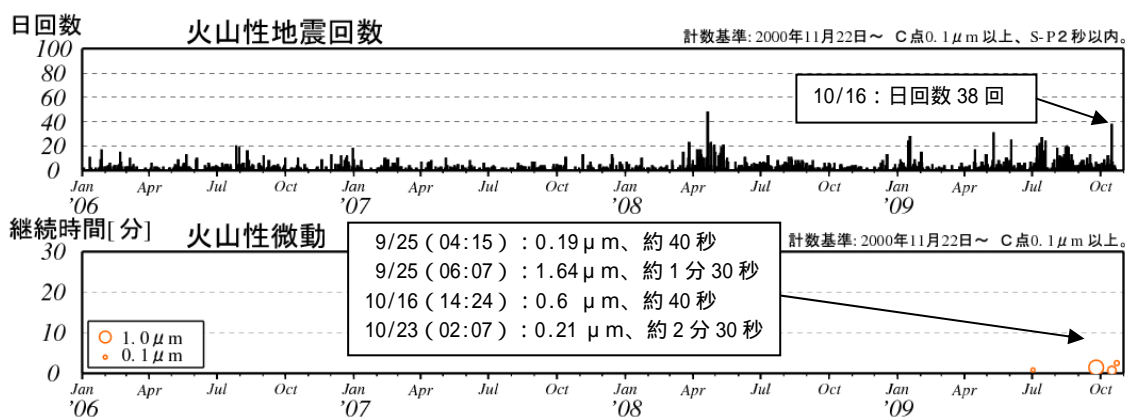


図2 樽前山 火山性地震と火山性微動の経過(2006年1月1日～2009年10月23日09時)

上記以外の火山では、期間中、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はない。

## 【参考】 噴火警報及び噴火予報と噴火警戒レベル等の対応表

噴火警戒レベル導入火山		噴火警戒レベル未導入火山
噴火警戒レベル(キーワード)	警報・予報	警戒事項等(キーワード)
レベル5(避難)	噴火警報	居住地域嚴重警戒 または山麓嚴重警戒
レベル4(避難準備)	火口周辺警報	入山危険
レベル3(入山規制)	噴火予報	火口周辺危険
レベル2(火口周辺規制)		平常
レベル1(平常)		

海底火山については、噴火警報(キーワード:周辺海域警戒)と噴火予報(キーワード:平常)で発表する。